

この紙のゴール：6つの型を運用し、過去の推量と後悔を書き分けて、判断の強さを選んで表現できる

入試へ挑むクラス 偏差値のめやす 60以上 「判断は今・出来事は過去」の形と、後悔の言い方まで見ます（確認は4択）

気づき AとB、どちらも同じ must。でも日本語にすると別物になる。何が決めている？（30秒考えて、となりの人と答え合わせ）

A	You must wear a helmet on this course.
B	You must be tired after that long game.

must は「そうでない可能性はない」と言い切る語です。Aは「そうしない選択肢はない」（義務）、Bは「そうでないはずがない」（推量）。決め手はうしろの内容—自分では変えられないこと（tired・hungry・like）なら推量、これからそうしなさいと言えること（wear・be quiet）なら義務。どちらにも読める文もあります。

整理 この単元で扱う6つの型（助動詞は話し手の判断を足す）

形	作り方	表すこと	例文
義務・必要	must / have to + 原形	～しなければならない	You have to change trains. 乗りかえないといけない。
推量（強い）	must + 原形	～にちがいない	They must be twins. あの二人は双子にちがいない。
助言	should + 原形	～したほうがいい	You should ask your teacher. 先生に聞いたほうがいい。
推量（弱い・打ち消し）	may / might + 原形 can't + 原形	～かもしれない ～のはずがない	She may be on the next bus. That can't be right. 次のバスかもしれない。／そんなはずはない。
過去の推量	must / may / can't + have + 過去分詞	～だったにちがいない など	I must have left it at home. 家に置いてきたにちがいない。
後悔・非難	should + have + 過去分詞	～すべきだったのに	I should have asked for help. 助けを求めればよかった。

形の約束は2つ—うしろは原形、助動詞は2つ並べられない（will can → will be able to）。ここから先が入試—①助動詞+have+過去分詞は「判断は今・出来事は過去」（He may have known it.）。②should have+過去分詞は should+原形 と伝わり方が変わります（ユニット13の仮定法過去完了へ）。③had better も「～したほうがいい」ですが、should とひびきがちがいます（発展版 大問3で）。

確認 （ ）内から正しいものを選ぼう。 知識・技能

- (1) You look pale. You (should / may / must not / can't) see a doctor today.
- (2) I'm not sure, but Ken (must / can't / may / has to) be in the gym.
- (3) Ken is in Okinawa now. That (mustn't / may not / doesn't have to / can't) be him.
- (4) The lights are off. They (must have gone / must go / must have went / had to go) home already.
- (5) I missed the last bus. I (should leave / should have left / must have left / had to leave) earlier.

助動詞の見取り図 | 解答とつまずきポイント

確認の解答

(1)	should	助言の should。may (～してもよい) は勧める場面に合わない。
(2)	may	確かではない＝弱い推量 (might も可)。must は言い切りで合わない。
(3)	can't	「～のはずがない」は can't。mustn't は「してはいけない」(禁止) で、推量の打ち消しにはならない。
(4)	must have gone	判断は今・出来事は過去＝have＋過去分詞。うしろは gone。
(5)	should have left	「～すべきだったのに(しなかった)」。乗り遅れた事実と should leave では話が合わない。

つまずき① 助動詞のうしろを原形にしない

助動詞のうしろはいつでも**原形**です。主語が he / she でも s は付かず、to も入りません。「助動詞を書いたら、次の語はそのままの形」と声に出して確かめる習慣をつけてください。

× She must goes to the office every Monday. → ○ She must go to the office every Monday.
must のうしろは原形 go。三単現の s は付けない。

つまずき② must を「しなければならない」だけで覚えている

must には**義務と推量**の2つの顔があります。Your brother must be at home. を「弟は家にいなければならない」と訳すと変ですが、「弟は家にいるにちがいない」なら通ります。訳して意味が通らないときは、もう一方の顔で読み直す—これだけで長文の誤読が減ります。決め手はうしろの内容で、**自分では変えられないこと**(tired・like) なら推量、これからそうしなさいと言えること(wear・be quiet) なら義務です。

つまずき③ 「～のはずがない」を mustn't で書く

must の否定は意味で2つに割れます。「してはいけない」は mustn't、「～のはずがない」は can't。日本語では同じ「～ない」でも、英語では別の語になります。

× He mustn't be the person who called me. → ○ He can't be the person who called me.
推量の打ち消しは can't。mustn't だと「その人であってはならない」という禁止になる。

つまずき④ don't have to と must not を同じだと思う

don't have to = しなくてよい(自由) / must not = してはいけない(禁止)。正反対です。あわせて、must には**過去形**がありません—過去の義務は had to で表します。

× It's a holiday, so you must not come to school. → ○ It's a holiday, so you don't have to come to school.
休みで「来なくてよい」のだから禁止ではない。must not は立入禁止の看板の側の語。

つまずき⑤ 助動詞＋have＋過去分詞の have を「持っている」と読む

この have に意味はなく、**出来事が過去だ**という合図です。判断しているのは今—He must have been sick. は「今そう判断している／病気だったのは過去」。とくに should have＋過去分詞は「**実際にはそうしなかった**」を含みます。

× You should have my phone number, but you didn't call me. → ○ You should have called me. You had my number.
「電話すべきだったのに(しなかった)」は should have＋過去分詞。have を動詞として使うと別の意味の文になる。

授業のひとつ 前日にこの紙を配り、確認問題まで解いてこさせる反転で使えます。授業は「may と might」「should と had better」の検討(ドリル発展版の大問3)と、過去の推量を書き分ける練習に充ててください。

